

読むことの楽しさを味わう子どもを育てる国語科学習指導 ～説明的文章における 読みの視点の設定と、読みを深める書く活動の工夫を通して～

要約

近年、国内外の学力調査の結果より、我が国の子ども達には思考力・判断力・表現力に課題が見られることが分かった。こうした能力を高めるには、必要な情報を取り出す能力、取り出した情報を相互に関連づけ、意味をまとめる能力、文章の要旨を明確にし、読み手自身の考えを明確にする能力、書かれていることの妥当性、正当性を批評する能力といった能力が重視され、各教科で言語活動の一層充実が必要である。このような中で、言語の教育として国語科が果たす役割は極めて大きい。本学級の子どもの実態を見ると、国語科学習に対する意欲が低く、特に説明文の「読むこと」の指導事項の定着に課題がある。そこで、子どもが意欲的に取り組める学習課題を設定し、学習意欲を高めるとともに、文章を「理解するために読む」「解釈・評価するために読む」「表現するために読む」ための指導を充実させることで読むことの楽しさを味わうことができるようにしたいと考え、「読むことの楽しさを味わう子どもを育てる国語科学習指導」をテーマとして設定した。具体的な子どもの姿を次のように考えた。

- 文章を読み進めることに関心をもち、読んだことを進んで伝え合おうとする子ども〈関・意・態〉
- 自他の考えの共通点や相違点に気をつけながら聞き、伝え合う子ども〈話・聞〉
- 「読みの視点」を手がかりに、大事な言葉や文に目を向けて読み取ったことを書く子ども〈書〉
- 叙述に即して正しく読み取り、根拠を明確にしながら、新たな見方や考え方を考える子ども〈読〉
- 言葉の働きや特徴、表記、文の構成等を正しく理解し、語彙を増やしていく子ども〈伝〉

テーマを充実させていくために以下の3点に重点をおいて取り組んだ。

①読みの視点の設定

「理解する」「解釈・評価する」「表現する」ための「読みの視点」(着眼点と方法)を設定する。

②読みを深める書く活動

単元の各段階に、「理解するための書く活動」、「解釈・評価するための書く活動」「表現するための書く活動」といった「書く」活動を位置づける。「つくる」段階に「確かに読む」「豊かに読む」「表現を意図して読む」ための書く活動を位置づける

③ユニバーサルデザインの授業づくりに基づいた支援の工夫

シンプル・ビジュアル・シェア・リズムの視点から授業づくりを考え、学習支援を行う

その結果、以下のような成果(○)と課題(●)を得た。

- 学習課題に応じて、「理解する」「解釈・評価する」「表現する」子どもの姿を意図して「読みの視点」を単元構成に位置づけることで、有意義な表現活動を行うことができることが分かった。
- 「つくる」段階に「確かに読む」「豊かに読む」「表現を意図して読む」ための書く活動を明確に位置づけることで、単元末に充実した表現活動を行うことができることが分かった。
- ユニバーサルデザインの視点から教材を視覚的に見せたり、考えを共有化したりすることは確かに読むこと、豊かに読むことを支える有効な手立てとなることが分かった。
- 読むことの楽しさにつながり、かつ学んだことを生かして表現できる単元を貫く言語活動の設定。
- 書き手を「評価」するための各段階での書く活動のより一層の充実と読みを深める発問の工夫。

キーワード： 「読みの視点」 読みを深める「書く」活動 ユニバーサルデザインの視点

1 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

現代社会は情報機器の発達により、様々な手段でコミュニケーションを取ることができる。こうした現状に反して、コミュニケーション能力が乏しい若者が増加しているという課題がある。相手の心情を理解し、言葉に表す「能力」が身につけていないのである。今後、言語の教育として国語科の果たす役割は極めて大きい。特に言葉を介して適切に理解する力、論理的に思考し表現する力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力を育成することや我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことが求められている。また、近年の国内外の学力調査により、我が国の子ども達には学習上の様々な課題があるが、最も著しい低下が「学ぶ意欲」に関する項目である。そこで、文章を主体的に読んでみたいという気持ちを持ち、読むことの楽しさを味わう子どもを育てることは社会の要請に応えるものである。

(2) 国語科の目標から

PISA2009の読解力調査において、日本の平均正答率は、OECDの平均正答率と比較すると若干ではあるが上回っている現状である。しかし、思考力・判断力・表現力等を問う読解問題や記述問題、知識・理解を活用する問題には未だ課題がある。こうした課題から、中央教育審議会（答申）によると各教科において思考力・判断力・表現力を高める学習活動が求められている。今後、高めていくべき能力とは、文章を読んで、何が書かれているかの必要な情報を取り出す能力（情報の取り出し）、取り出した情報を相互に関連づけ、意味をまとめる能力（情報の解釈）、文章の要旨を明確にし、読み手自身の考えを明確にする能力、書かれていることの妥当性、正当性について批評する能力（情報の熟考・評価）である。こうした能力を高める上で、各教科における言語活動の充実が重視されている。小学校学習指導要領解説国語編 第1. 2学年の【説明的な文章の解釈に関する指導事項】には「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」とある。【自分の考えの形成及び交流に関する指導事項】には「大事な言葉や文を書き抜く」とある。このような能力を高めるには、読むことの関心を高め、読んだことを表現する活動を位置づけた学習展開の工夫が必要である。本研究では、当該単元でねらう指導事項を定着させるような学習課題を設定し、問題解決を図るために、毎時間「書く」活動を位置づけることで子ども達が学習内容を適切に理解するとともに、読むことに対する主体的な態度を育て、分かったことを表現したり、多読に広げたりする楽しさを味わうことをねらいとしている。以上のことは国語科のねらいを達成する上からも意義深い。

(3) 児童の実態から

本学級の子どもの昨年度のCRTテスト結果（図1）から分かるとおり、国語科の学習に対する意欲は低く、特に「読むこと」に課題がある。実態調査を行ったところ、説明文においては文章を正確に読み書く力、文章を解釈し書き表す力、文章についての自分の考えを持ち、書き手を評価する力が十分に身につけていないことが分かった。

関心・意欲・態度	92.3
話す・聞く能力	97.6
書く能力	99.0
読む能力	93.0
言語の知識・理解・技能	100.1

そこで、本研究では、まず子どもが意欲的に取り組める学習課題を設定し学習意欲を高めること、次に文章を「理解するために読む」「解釈・評価するために読む」「表現するために読む」指導を行うことで学習課題解決に必要な知識や技能を身に付けさせること、さらに知識を活用して言語活動を行い、自分の考えや思いを表現すること、こうした活動を連動することを通して読む楽しさを味わい、読解力を高めることをねらいとしている。このことは子どもの実態の課題解決の上からも意義深い。

2 主題の意味

(1) 主題「読むことの楽しさを味わう子どもを育てる国語科学習指導」について

①「読むことの楽しさを味わう」とは

「読むことの楽しさを味わう」とは、子どもが本や文章を読むことに興味をもち、事物の不思議さや事物に関する知識を習得することに満足感をもつことである。また本や文章を読む際、知的好奇心に刺激されて主体的に読むこと、関連図書の多読に広げたいという気持ちをもつことである。

②「読むことの楽しさを味わう子ども」の具体的な姿とは

読むことの楽しさを味わう子どもの具体的な姿とは以下のような姿である。

- 文章を読み進めることに興味をもち、読んだことを進んで伝え合おうとする子ども〈関・意・態〉
- 自他の考えの共通点や相違点に気をつけながら聞き、伝え合う子ども〈話・聞〉
- 「読みの視点」を手がかりに、大事な言葉や文に目を向けて読み取ったことを書く子ども〈書〉
- 叙述に即して正しく読み取り、根拠を明確にしなが、新たな見方や考え方をつくる子ども〈読〉
- 言葉の働きや特徴、表記、文の構成等を正しく理解し、語彙を増やしていく子ども〈伝〉

(2) 副主題「読みの視点を手がかりに、読みを深める書く活動」の位置づけについて

①「読みの視点」とは

「読みの視点」とは、説明文を読む際に、手がかりとなる着眼点や思考方法のことである。1単位時間における学習活動において、読み取ったことを的確に書き抜いたり、相互に関連づけて書きまとめたり、単元末に生かすために書いたりするために、毎時間、読みの「着眼点」として子どもに提示し、読む活動の手がかりとなる役割をもっている。その際、具体的にはどのように思考するか、「思考方法」も提示するため、ここでは2つを合わせて「視点」と位置づける。毎時間、「読みの視点」を手がかりに行う読む活動は単元末の表現活動と関連性をもち、単元末は読んで、学んだことを生かした表現活動でなくてはならない。

②「読みを深める書く活動」とは

「読みを深める書く活動」とは単元の各段階に位置づける「書く」活動である。

まず、「つくる」段階に文章に線を引いたり、書き抜いたりする「確かに読む」ための書く活動、叙述の意味を考えて分かったことを書く「豊かに読む」ための書く活動、本時学んだことを単元末の表現に生かす点を書く「表現を意図して読む」ための「書く」活動の3つの「書く」活動を位置づける。

次に、「深める」段階に文章の内容や構成を解釈・評価し、自分の考えを書く活動を位置づける。最後に、「生かす」段階に学んだ内容や構成を生かして書き表す活動を位置づける。こうした「読む」活動と「書く」活動との連動を通して、子どもは読みを深めることができると考える。

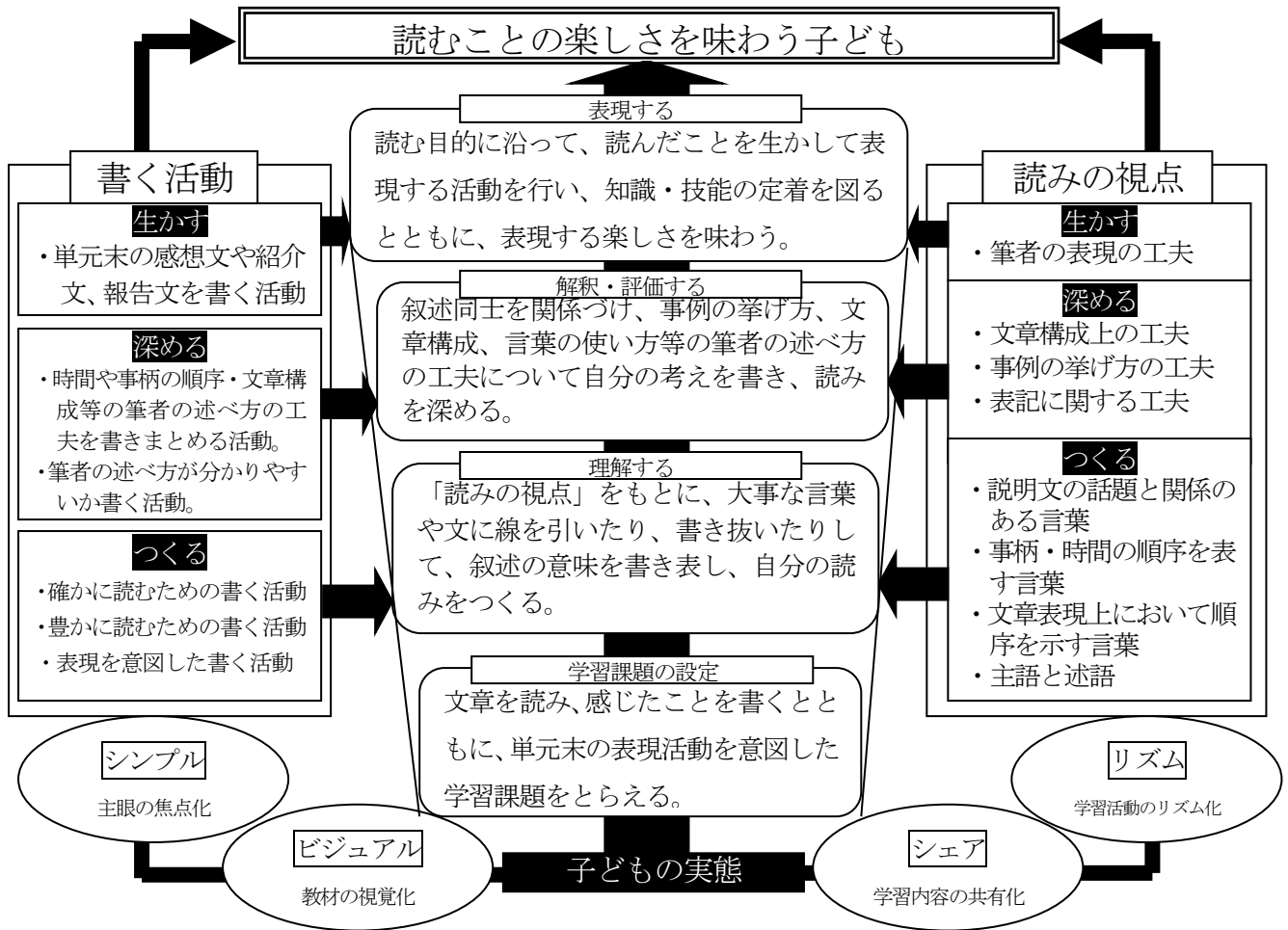
3 研究の目標

「読みの視点」を設定し、読みを深める「書く」活動を位置づけた説明文の読みを通して、読むことの楽しさを味わう子どもを育てる国語科学習指導を究明する。

4 研究の仮説

「読みの視点」を示し、それを手がかりとしながら、「書く」活動を仕組んだ毎時間の学習過程や単元構成を工夫していけば、読むことの楽しさを味わう子どもが育つであろう。

5 研究構想図



6 仮説検証の内容と方法

本仮説に迫るための具体的な方途として、以下の内容や方法を決め、研究に取り組むこととした。

(1) 「読みの視点」の位置づけ

① 「読みの視点」を位置づけた学習活動

各単元の学習活動の中に、毎時間以下のような「読みの視点」(着眼点と思考方法)を位置づける。

読みの視点	
着眼点	思考方法
〈 順序を表す言葉 〉 ・ 事柄・時間の順序を表す言葉 ・ 文章表現上において順序を示す言葉 〈 説明文の話題においてキーワード 〉 ・ 説明文の話題と関係のある言葉 ・ 主語と述語 〈 筆者の述べ方の工夫 〉 ・ 文章構成上の工夫 ・ 事例の挙げ方の工夫 ・ 表記に関する工夫	・ 叙述と経験との関係づけ ・ 叙述の意味の動作化 ・ 言葉や事例の順序 ・ 言葉や事例の置き換え ・ 言葉や事例の消去 ・ 言葉や事例の仮定

② 「読みの視点」を位置づけた年間指導計画

単元を通して指導するねらいや重点的に取り上げる指導事項を焦点化することで、その学年で身につけたい力を明確にすることができる。そのために各単元のねらいを「正確に読む」「比べて読む」「多面的に読む」と分類し、年間を通してどのように指導するか具体的な見通しをもつこととした。

年間指導計画			説明文教材	読みの視点（◆着眼点と◇思考方法）
一学期	第一単元	正確に読む	読んで わかった ことを まとめよう 「たんぼぼのちえ」 検証授業①	◆「様子」と「わけ」文末表現に着眼して ◇様子とわけを見つける。 ◇様子とわけを比べる。 ◇様子とわけをつないでちえを考える。
		二学期	第二単元	読んで 考えたことを 書こう 「どうぶつえんのじゅうい」 検証授業②
比べて読む	読んで、せつめいのしかたを 考えよう 「しかけカードのつくり方」			◆「順序」「写真」に着眼して ◇順序を表す言葉を見つける。 ◇写真とつなぐ。 ◇作り方、つかい方をまとめる。
三学期	第三単元	多面的に読む	知っていることと つなげて 読もう 「おにごっこ」 検証授業③	◆「遊び方」「わけ」順序を表す言葉、段落始めの 言葉、文末表現に着眼して ◇事例同士をつなぐ。 ◇事例とまとめをつなぐ。 ◇自分の経験と結びつける。

(2) 読みを深める書く活動

①書く活動を位置づけた単元構成

- ・「つくる」段階において文章の叙述を読み取ったことを書き抜く活動を位置づける。
- ・「深める」段階において文章の内容や構成を解釈・評価し、自分の考えを書く活動を位置づける。
- ・「生かす」段階において学んだ内容や構成を生かして自分なりに書き表す活動を位置づける。

単元構成	
つ か む	◆文章を読んで、感じたことや思ったことを書く。 ◆文章中の語句の意味を知るために、言葉の意味を書く。 ◆書いたことを交流したことから学習課題をつくり、読む目的をつかむ。
つ く る	◆文章をひとまとまりの語や文を読み、大事な言葉を書き抜く。 ◆問いと答えの文を見つけて、書き抜く。 ◆順序や繰り返し等を考えながら、内容の大体を読み、気付いたことを書く。 《 理解するための書く活動 》
深 め る	◆事例・構成・表記における筆者の述べ方の工夫について、わかったことを書く ◆文章の内容や構成に対して分かりやすいかについて自分の思いや考えを書く。 《 解釈・評価するための書く活動 》
生 か す	◆目的に沿って、単元で学んだことを生かして自分なりに感想や紹介文を書く。 《 表現するための書く活動 》

②書く活動を位置づけた「つくる」段階の1単位時間の学習過程

- ・大事な言葉を書き抜いたり、書いたことを関連づける「確かに読むための書く活動」を位置づける。
- ・動作化等の方法で叙述の意味を再度、とらえ直し、「豊かに読むための書く活動」を位置づける。
- ・本時で見出したことを単元末の言語活動に生かす「表現を意図した書く活動」を位置づける。

1 単位時間の学習活動 と 書く活動の位置づけ★	
つかむ	学習課題に出会い、本時で解決する問題をとらえたり、本時の読みのめあてをつかむ。 ・全文の音読をする。 ・本時、読む説明文の段落の間違い探しをする。 ・既習の振り返りと本時の説明文とのつながりをつかむ。
つくる	学習活動の見通しをもち、自力解決を行う。 ・説明文を読む上での「読みの視点」(着眼点や思考方法)をつかむ。 ★「読みの視点」に沿って大事な言葉を書き抜いたり、文章に線を引いたりする。 《 確かに読むための書く活動 》
深める	学習活動で読み取ったことを交流する活動を行う。 ・互いに書き抜いた文や線を引いたところを伝え合う。 ・動作化や模型、置き換え、消去等の方法をつかって叙述の意味をとらえ直す。 ★とらえた叙述の意味から考えたこと、わかったことを自分なりに書き表す。 《 豊かに読むための書く活動 》
生かす	本時学習をふり返り、本時で読み取ったことをまとめたり、主張とのつながりを考えたりする。 ・本時学習で読み取ったことと、結論とのつながりを考える。 ・次時学習と本時学習とのつながりを考える。 ★本時学習をもとに自己の考えを見直すとともに単元末の表現活動と関連したことを書く。 《 表現を意図した書く活動 》

(3) ユニバーサルデザインの授業づくりに基づいた教師の支援

ユニバーサルデザインの視点から授業づくりを行うことは、子ども達が読解力を身に付け、読むことの楽しさを味わうことにおいて有効な支援であると考えます。ユニバーサルデザインの視点とは学習内容や方法を「見える化」するための支援である。4つの視点については以下の通りである。

《 ユニバーサルデザインの視点 》

- ① シンプル…主眼の明確化 本時でとらえさせたい力を明らかにする。
- ② ビジュアル…視覚化 板書や既習図を工夫し、とらえさせたい力をサポートする。
- ③ シェア…共有化 学習で読み取ったことを交流することで、新たな見方や考え方をつくる。
- ④ リズム…リズム化 活動の切れ間にメリハリを持たせ学習をテンポよく行えるようにする。

※1 単位時間におけるユニバーサルデザインの視点の位置づけ

主眼 本時、子どもにとらえさせたい力を簡潔に具体化して書く。… **シンプル**

学 習 活 動	ユニバーサルデザインに基づく支援例
つかむ	リズム …音読や間違いクイズをすることでテンポよく学習に臨ませる。 ビジュアル …PCや視覚教材を使って視覚化する。
つくる	ビジュアル …「読みの視点」をPCや大型TVを使って提示する。 シェア …「読みの視点」を確認したり線を引く活動を共有化したりする。 ビジュアル …本文の線を色分けすることで視覚化する。
深める	シェア …考えを確認したり共有化したりさせる。 ビジュアル …叙述の意味を模型や動作化等を行わせ、視覚化する。 シェア …自他の考えの共有化させ、新たな考えを構築させる。
生かす	リズム …次時の音読を行う等、テンポよく次時への見通しを持たせる。 ビジュアル …PCや視覚教材を用いて提示し、次時の紹介をする。

7 研究の実際と考察

【実践1】第2学年「たんぽぽのちえ」（7月実施）

（1）本単元の指導にあたって

本単元の指導にあたっては、たんぽぽの様々なちえについて分かったことをまとめ、自分なりの感想をもつことができる子どもを目指した。そのために本文の中にある時間の順序や理由付けの言葉に着眼しながら読ませ、模型等を使ってやってみたことを交流するという学び方を積み上げていった。

（2）指導の実際と考察

①「である」段階

「である」段階では、まず、題名読み、内容の予想読み、教材文を読んで、読みのめあてを立てるという順序で指導を行ってきた。この単元では、様々な姿のたんぽぽの挿絵を提示し、それぞれ様子が違うことに気づかせ、様子が違うわけはなんだろう？という疑問から教材文に関心をもたせた。その後、題名の「たんぽぽのちえ」から、様子が違うわけはたんぽぽがちえを働かせているからでは？という予想を立て、「たんぽぽのいろいろなちえやその時の『ようす』、『わけ』について、時間のじゅんじょにそって読み、分かったことを1年生にしようかいしよう」という単元のめあてをつくった。

〈 考察 〉

「である」段階で単元末の表現活動を意識させたことで「1年生」という相手意識、「紹介する」という目的意識をもち、そのために読むという目的をつくる上で有効だった。

②「つくる」段階

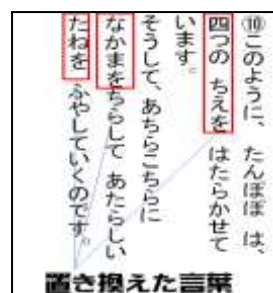
「つくる」段階では序論における話題提示と問い、結論における筆者の主張に線を引かせ、本論が主張を説明するために述べられているという文章の構成をとらえさせた上で、各事例を読ませた。

「読みの視点」は「様子」「わけ」を設定し、それぞれを表す言葉に着眼して文章を読み取っていった。導入では、間違い探しクイズを行い、文章の重要な語句や文を置き換えた文から正しい言葉や文を見つけさせた。(図1) その際、本時のキーワードとなる言葉をわざと換えておいた点は有効であった。例えば、たんぽぽの花の軸が「倒して」という文を「咲いている」と置き換える。すると、子ども達はその様子を比較し、わけは何だろう？どんなちえなのだろう？というめあてをつくることができた。

「確かに読むための書く活動」では、「読みの視点」に沿って「様子」「わけ」の線を色分けしたことで、各段落が同じように述べられていることに気づいた。

「豊かに読むための書く活動」ではたんぽぽのちえを読み取るために、落下傘の模型を用いてわた毛の様子を再現する

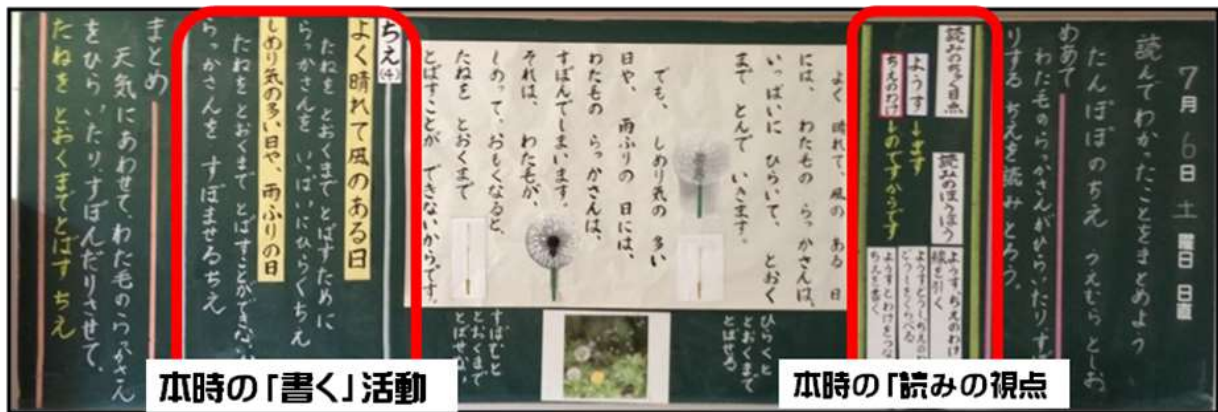
ことで、叙述の意味をとらえ、わけを書かせる活動を行った。(図2) 例えば、いっぱい開いた落下傘と湿ってすぼんだ落下傘のように条件の違う模型を用意し、飛ばしてみる。その際、文章にどのように書かれているかを確認させ、わけを書かせた。模型を使って様子を再現したことでわた毛が湿ると重たくなって飛ばないことや軽いと遠くまで飛ぶことをとらえ、落下傘が、天気に合わせて開いたり、すぼんだりしている「ちえ」を実感を伴って理解することができた。



【図1：導入の間違い探し】



【図2：具体化した落下傘の模型】



〈 考察 〉 【「読みの視点」と「書く」活動を位置づけた板書】

「つくる」段階では、文章を正しく理解するために「様子」「わけ」という「読みの視点」を提示した。「確かに読むための書く活動」で線を色分けしたことは、子ども達は自力読みを進めることができた点は有効であった。「豊かに読むための書く活動」では、具体物を操作したことで叙述の意味について実感を伴って理解することができ、読みを深めて書くことができた。

③「深める」段階

「深める」段階では、「読みの視点」として「事例（せつめい）」「構成（文のつくり）」を提示した。事例については、全文を黒板に掲示し、各事例を入れ替えて発問したことで、本文が時間の順序に沿って述べている工夫をとらえさせることができた。構成については、毎時間の読みを振り返り、各事例が結論「新しい仲間を増やすためにたねを増やす」とつながっていることを確認することはできた。

〈 考察 〉

「深める」段階の解釈するための書く活動では1単位時間の読み取りノートでは全体の構成を振りという点で課題が残った。筆者の述べ方を評価する書く活動では筆者の工夫があることで「教材文は分かりやすい」という考えになり、工夫の善し悪しや工夫の選択を行うことができなかった。

④「生かす」段階

「生かす」段階では、「たんぼぼには4つのちえがあります。」「〇つ目は～するちえです。」「これは～している様子です。」「わけは～です。」「このようにたんぼぼは新しい仲間を増やすために4つのちえを働かせています。」といった紹介文に必要な文を考え、教材文から学んだことを紹介文に書く活動を行った。この活動では、グループごとに、どのちえを伝えるかを決め、自分達が伝えることを紹介文に書き、4つのちえと、なぜちえを働かせているのかを1年生に伝えることができた。

〈 考察 〉

「生かす」段階では、「深める」段階で、筆者の述べ方の工夫について理解することはできたが、工夫を生かして文章を書くことが十分に行えなかった。「深める」段階で、筆者のどの工夫を自分の紹介文に生かすかをしっかりと吟味しなければならない。

【実践事例1】の考察から明らかになった成果と課題

- 「つくる」段階で、「確かに読む」ために線を色分けしたこと、「豊かに読む」ために模型を使って叙述の意味をとらえ、わけを書かせたことは子どもが理解する上で有効であった。
- 「深める」段階で、筆者の述べ方のよさを評価し、どのような点が分かりやすいかを書く活動を十分に行わなかったために「生かす」段階でうまく表現することができなかった。

【実践2】第2学年「どうぶつ園のじゅうい」（10月実施）

（1）本単元の指導にあたって

本単元の指導にあたっては、獣医の一日が時間の経過に沿って書かれていることに気づき、事柄や時間の順序に着眼しながら読むこと、読んで考えたことを感想にまとめる姿を目指した。そのために、「いつ」「仕事」「わけ」の「読みの視点」を設定し、読んだことを表に書きまとめる活動を行った。

（2）指導の実際と考察

①「であう」段階

「であう」段階では、まず、動物園の中にある病院の映像を見せ、「獣医」の仕事に興味をもたせた。次に、文章を読んで初発の感想を書かせた。交流の中で教材文が獣医の一日の出来事について書かれていることに気づかせ、単元のめあてを「じゅういの一日の仕事について時間のじゅんじよにそって読み、考えたことを感想にまとめよう。」とした。また、前単元の構成を想起させ、同じ構成になっているかという視点をもたせ、「はじめ」「なか」「おわり」の構成になっていることをとらえさせた。

〈 考察 〉

「であう」段階では、初発の感想を交流させたことで、獣医の仕事について分かったこと、初めて知ったことを、感想にまとめるという目的をつくることができ、有効であった。また、前単元の構成を振り返り、大まかな文章構成をとらえることができた点もよかった。

②「つくる」段階

「つくる」段階では、「時間を表す言葉」「獣医の仕事」「わけ」の3つの「読みの視点」を設定し、自分で線を引く、動作化をして叙述の意味を確かめ、わかったことを書く、表にまとめるといった活動を積み上げてきた。「確かに読むための書く活動」では、線を引く前に友達とどこに引けそうか交流したことで、より正確に線を引くことができた。「豊かに読むための書く活動」では、獣医役、動物役に分かれて、毎時間、動作化を行った。（図3）、動作化は叙述の意味を正しくとらえる上で有効であった。



【図3：叙述の意味の動作化】

〈 考察 〉

「つくる」段階では、「確かに読むための書く活動」の前にどこに引けそうか交流したことで、より確かな書く活動を行うことができた。「豊かに読むための書く活動」は動作化をしたことで獣医の「仕事」と「わけ」について分かったことを書く活動を行うことができた。

③「深める」段階

「深める」段階では、「読みの視点」として「事例（せつめい）」「構成（文のつくり）」「表記（言葉の使い方）」を提示した。ここでは「つくる」段階で読み取ったものをまとめた表（図4）を生かして全文を振り返り、筆者の述べ方の工夫をとらえる学習を行った。

まず、事例については、各事例には必ず「いつ」「仕事」「わけ」があり、共

【図4：各段階で書きまとめた表】

通した述べ方をしていること、また、獣医の一日の仕事について時間の順序に沿って述べられていることをとらえた。子どものノートがすでに、読み取り表になっており、書く観点ごとにまとめられていたために、各事例が共通した書きぶりをしていることは視覚的にとらえることができた。時間の順序は、各段落の要点を黒板に貼り、順序を置き換えたり、消去をしたりしてみることで、1日の時間に沿って書かれていることをとらえさせたのも有効だったといえる。

次に、構成については、どの段落も結論とつながっていることをとらえさせるために、「つくる」段階で常に結論の文を提示しておき、序論にある「動物たちが元気に暮らすことができるようにするために動物のけがや病気を治療すること」と各段落のつながりを見つけることができた。

さらに獣医の「すること」「したこと」といった表記に着目させ、獣医の仕事を「いつもする仕事」と「ある日した仕事」に分けて述べていることに気づかせていった。子ども達に、なぜ筆者は2つの仕事を書いたのだろうと発問したことで、子ども達は、必ずする仕事と、ある日したことは、日によって動物の病気やケガは違うから、敢えて2つの仕事を述べたのではないかと読みを深めることができ、有効だった。こうした解釈読みの後、事例をもっと増やした方がいいという意見やこのままの文が分かりやすいという意見が出始め、筆者の述べ方について2年生なりに評価することができた点はよかった。

〈 考察 〉

「深める」段階の解釈する活動では、「読みの視点」である「事例」「構成」「表記」について、予めまとめた表を活用して書く活動を行ったことで、述べ方の工夫をとらえることができた。特に「いつもすること」「ある日したこと」という表記に着目させて述べ方の違いをとらえた点は有効であった。

④生かす段階

「生かす」段階では、述べ方の工夫の「構成」にもとづいて、心に残ったことを感想にまとめさせていった。自分自身が感じたことを経験とつなぎながら、「はじめ—なか—おわり」の文章構成に基づいて書くという活動は、文章を順序よく述べるという点で、筆者の述べ方を生かして書くことができた。(図5)

〈 考察 〉「生かす」段階では、筆者の述べ方の工夫から表現に生かせるものを選択するという点で多様性が見られず、感想文にまとめるという学習課題の設定を工夫する必要があったのではないかという課題が残った。



【図5：筆者の構成に基づいて書いた感想文】

【実践事例2】の考察から明らかになった成果と課題

- 「深める」段階で、毎時間つくった読み取り表を既習図として述べ方を振り返ったことで、筆者の述べ方の工夫の分かりやすい点を振り返ることができたのは有効であった。
- 「生かす」段階で、筆者の述べ方の工夫を生かして表現できるように、単元当初の学習課題を十分に吟味して設定するとともに、「表現を意図して読むための書く活動」を、積み重ねる必要がある。

【実践3】第2学年「おにごっこ」(12月実施)

(1) 本単元の指導にあたって

本単元の指導にあたっては、叙述を正しく読んだり、叙述の意味を読み深めたりする力を身に付け、経験とつないで紹介文に書くことができる子どもを目指した。そのために「遊び方」「遊び方のわけ」を「読みの視点」として設定し、読んだことを実際に試しながら考えたことを書く活動を行った。

(2) 指導の実際と考察

①「である」段階

「である」段階では、まず、昼休みにおにごっこをしている様子を提示し、教材文に関心をもたせた。次に、教材文を読み、初発の感想を書かせた。その後、既習の例を示し、教材文が「はじめ」「なか」「おわり」の構成になっているか、本論にはいくつの遊びがあるか、結論と本文の説明が合うか等の課題意識をもたせ、単元のめあてを「4つのおにごっこが、『おわり』に合うように説明されているか読み、しょうかいのしかたを知ってほかのあそびをしょうかいしよう。」とした。

〈 考察 〉

「である」段階では、課題意識をもたせる上で、身近な話題について、実際の経験を振り返りながら、教材文に関心をもたせたこと、既習から大まかな文章構成をとらえ、結論と本文の説明が合うように書かれているかという視点をもたせたことが有効であった。

②「つくる」段階

「つくる」段階では、「あそび方」「あそび方のわけ」「くふう」の3つの「読みの視点」を設定した。自分で線を引く、叙述の意味を確かめるためにミニボードでおにごっこをやってみて、わかったことを書くに加えて、毎時間、本時の学習で分かった工夫で、自分の紹介文に生かせそうなことを書く活動を積み上げてきた。「確かに読むための書く活動」では、自力読みの前の交流活動が定着し、多くの子が躊躇なく自分の考えをつくれた。「豊かに読むための書く活動」ではミニボードで交流したことで(図6)、おにごっこの動きを想起でき、叙述の意味を正しくとらえることができた。また、「表現を意図して読むための書く活動」では、毎時間、「今日の学習で」に、紹介文に生かせそうな点を書かせたことで、単元末の表現を行う見通しをもつことができた。



【図6：叙述の意味を交流する様子】

「豊かに読むための書く活動」ではミニボードで交流したことで(図6)、おにごっこの動きを想起でき、叙述の意味を正しくとらえることができた。また、「表現を意図して読むための書く活動」では、毎時間、「今日の学習で」に、紹介文に生かせそうな点を書かせたことで、単元末の表現を行う見通しをもつことができた。

〈 考察 〉

「つくる」段階では、「豊かに読むための書く活動」で行ったミニボードでの交流活動が叙述の意味をとらえる上で有効な手段だったといえる。また、「表現を意図した書く活動」の充実を図り、単元末の表現活動を常に意識することができた点はよかった。

③「深める」段階

「深める」段階では、「読みの視点」として「事例(せつめい)」「構成(文のつくり)」「表記(言葉の使い方)」を提示した。

まず、事例については「遊び方」と「遊び方のわけ」が共通して書かれていることをとらえることができた。「よくある遊び方」から、「より工夫された遊び方」へと順序も工夫されていることにも触れたため、読みを深めることができたといえる。

次に、構成については、事例では多様な遊び方と結論とがつながりを再確認し、結論の「おにごっこはみんなが楽しめるように工夫されてきた」と各段落のつながりを見つけることができた。

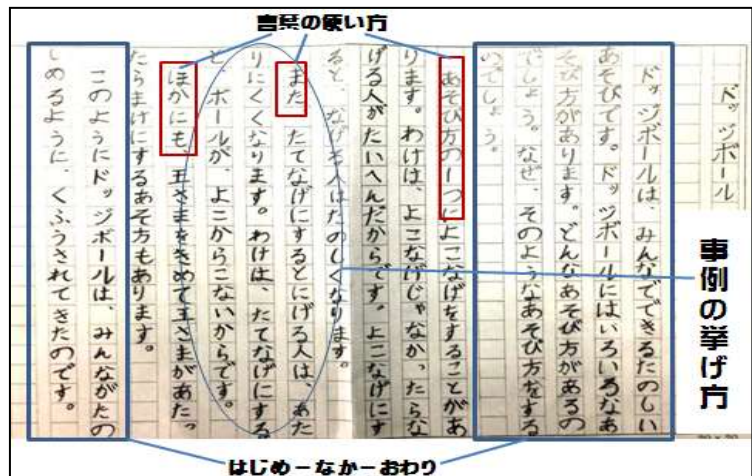
さらに、表記に着目させて、おにごっこが「にげる側」「追う側」「両方の側」の3つの視点から述べられていることをとらえさせ、筆者が説明文を述べる上での工夫点を明らかにした。その後、紹介文にどの工夫を生かすか選択したことで、自分なりに筆者の述べ方の工夫を評価することができた。

〈 考察 〉

「深める」段階では、「読みの視点」である「事例」「構成」「表記」について、述べ方の工夫を整理し、明確にしたことで、単元末の表現を行うために工夫の選択を行うことができた点が有効であった。

④「生かす」段階

「生かす」段階では、予め、想起させておいた他の遊びを本単元で学んだ工夫に基き、紹介する文にまとめさせる活動を行った。筆者の述べ方を生かして、他の遊びを紹介文に書くことができた(図7)



〈 考察 〉

単元当初に、単元末の表現活動を考えて学習設定を行い、教材文から学んだ点で表現に生かせそうなことを毎時間書き、自分がどの工夫を生かすかを選択するといった一貫した学習活動を行うことで、有意義な表現活動を行うことができることが分かった。

【図7：筆者の事例・構成・表記の工夫に基づいて書いた紹介文】

【実践事例1・2】を踏まえた【実践事例3】の成果

- 「筆者の述べ方の工夫を生かして他の遊びを紹介する」という学習課題を設定し、単元当初に紹介したい遊びを想起させておいたことで、意識を継続させて、学習活動を行うことができた。
- 「つくる」段階で、「表現を意図して読むための書く活動」で、紹介文を書くために本時のどの点か書く活動に生かすかを明確に書かせたことで筆者の述べ方を生かした紹介文を書くことができた。
- 「深める」段階で、述べ方のよさを整理し、自分が生かせる工夫(事例・構成・表記)を選択させたことで、「生かす」段階では、多様な紹介文を書くことができた。

【全体考察 ○：成果 ●：今後の課題】

- 学習課題に応じて、「理解する」「解釈・評価する」「表現する」子どもの姿を意図して「読みの視点」を単元構成に位置づけることで、有意義な表現活動を行うことができることが分かった。
- 「理解するための書く活動」、「解釈・評価するための書く活動」「表現するための書く活動」といった「書く」活動を位置づけたことで、各段階でとらえさせたいことが明確になった。
- 「つくる」段階に「確かに読む」「豊かに読む」「表現を意図して読む」ための書く活動を明確に位置づけることで、単元末に充実した表現活動を行うことができることが分かった。
- ユニバーサルデザインの視点から教材を視覚的に見せたり、考えを共有化したりすることは確かに読むこと、豊かに読むことを支える有効な手立てとなることが分かった。
- 読むことの楽しさにつながり、かつ学んだことを生かして表現できる単元末の表現活動の設定。
- 書き手を「評価」するための各段階での書く活動のより一層の充実と読みを深める発問の工夫。

〈参考文献〉

小学校学習指導要領解説 国語編 文部科学省
教材にしかけをつくる国語授業10の方法【説明文】桂聖 東洋館出版社